

第110回教育研究会報告

『実践に役立つ研修技法』

12月9日(金)、第110回教育研究会が開催された。「実践に役立つ研修技法」をテーマとして、変革の時代に求められる「気づき」促す研修技法の活用を中心に、日能率協会人材マネジメントセンター・チーフHRMコンサルタント浦山孝子氏にご指導をいただいた。

<気づきを与える研修技法>

研修参加への抵抗感(講師・テーマ・参加者同志に対する抵抗感)を取り除くため、「対話できる雰囲気をつくるアイスブレイキング」を用い参加者が自ら動き、出来るだけ沢山のひとと挨拶を交わすことでその場に自然にとけ込んでいく手法を実習した。「受容と共感的理解を促す傾聴実習」では自己紹介を兼ねて相手に自分のことを話し、相手側が「あなたは～が出来る人」(可能性を)フィードバックすることで信頼性が生まれる方法が取られた。



<インストラクション演習>

航空会社で使用されている「現場体験をさせながらやる気を高める社員研修」のビデオを見て、気づきについてどう指導するかを学んだ。

浦山講師の笑顔で明るい解りやすいご指導のもと参加者35名が5グループに分かれ、自らが体験しながら手法を習得する形が取られ参加者からも好評であった。

また、教育担当者として他社との情報交換、交流の場としても役立ていただいた。